

# 点滴かん水がブドウ‘デラウェア’の 生育と果実品質に及ぼす影響

## 1. 研究のねらい

本県のブドウ園では、主にスプリンクラーを用いて、1回に2～3万リットル/10aと必要以上のかん水が行われ、ハウス内の湿度の上昇による裂果や果実糖度の低下などを引き起こしています。

そこで、‘デラウェア’を用いて、日射量に応じてかん水量が調節できる日射比例点滴かん水区（平均22.6%<sup>1</sup>/樹/日）と日同量点滴かん水区（20%<sup>1</sup>/樹/日）及びスプリンク



ラーによる慣行かん水区（400%<sup>1</sup>/樹/週）を設定し、生育や果実品質などを比較しました。

## 2. 研究の成果

点滴かん水区は、慣行かん水区に比べ、幹の肥大や新梢の生育などの樹の生育が抑えられましたが、果皮強度が強くなることにより裂果が軽減され、糖度の高い高品質のブドウが生産できました。また、点滴かん水方法で比較すると、日射比例点滴かん水区は日同量点滴かん水区より、生育が優れ、収量が多くなりました。

## 3. 成果の活用と留意点

点滴かん水栽培は、湿害のない排水の良い園で行い、植え付け時には根域部分の土壌改良を徹底しておきます。また、かん水量は生育や天候条件に応じて調節する必要があります。

表1 かん水方法の違いが生育、収量と裂果率に及ぼす影響（2005）

試験区	幹周 cm	平均新梢長 cm	葉面積 m <sup>2</sup> /樹	収量 kg/樹	裂果率 %
日射比例点滴かん水区	8.4	139.9	18.2	4.95	6.7
日同量点滴かん水区	7.5	135.2	16.9	4.10	4.6
大量かん水区(慣行区)	8.9	163.6	20.0	4.83	13.4

表2 かん水方法の違いが果実品質に及ぼす影響（2005）

試験区	1房重 g	1粒重 g	果色	果皮強度 J/m <sup>3</sup>	糖度 brix%
日射比例点滴かん水区	108.9	1.63	5.4	$1.19 \times 10^{-4}$	23.7
日同量点滴かん水区	94.3	1.55	5.5	$1.14 \times 10^{-4}$	24.0
大量かん水区(慣行区)	111.4	1.87	5.4	$0.77 \times 10^{-4}$	22.7